

令和6年度 第1回在宅医療・介護連携推進会議

次 第

日時 令和6年7月11日（木）午後7時から

場所 Web会議及び小金井市役所第二庁舎801会議室

1 開会

2 議題

- (1) 第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画について【資料1】
- (2) 令和5年度における各事業実施実績について【資料2】
- (3) 令和6年度における各事業実施予定について【資料3】
- (4) 令和5年度における小金井市在宅医療・介護連携支援室の実績について【資料4】
- (5) お元気サミット・介護みらいフェス合同事業について
- (6) 各部会における検討状況について【資料5】

3 その他

- (1) 情報提供
心不全サポート事業について（榊原記念病院）
- (2) 次回開催予定
令和6年10月17日（木）午後7時から

4 閉会

【配付資料】

- (1) 第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画（抜粋）
- (2) 令和5年度における各事業実施状況について
- (3) 令和6年度における各事業実施予定について
- (4) 小金井市在宅医療・介護連携支援室 令和5年度 事業概要
- (5) 小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

第9期小金井市介護保険・
高齢者保健福祉総合事業計画
(小金井市地域包括ケア推進計画)

抜粋



第2章

高齢者を取り巻く現状と課題

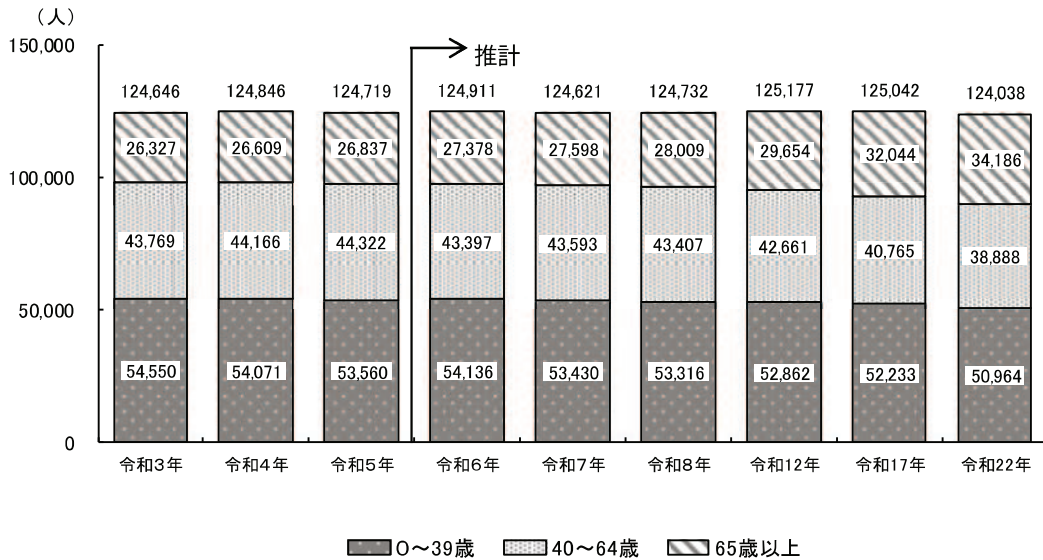
1 人口

(1) 年齢3区分別人口

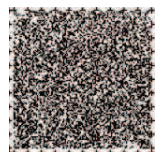
市の人口は、近年横ばいの状態が続いており、令和5年10月1日現在には124,719人となっており、そのうち65歳以上の高齢者人口は26,837人となっています。

推計をみると、令和6年から令和22年にかけて、0～39歳、40～64歳の人口は減少し続けると見込まれています。一方、65歳以上の高齢者人口は増加し続ける見込みとなっています。

図表1 年齢構成別人口

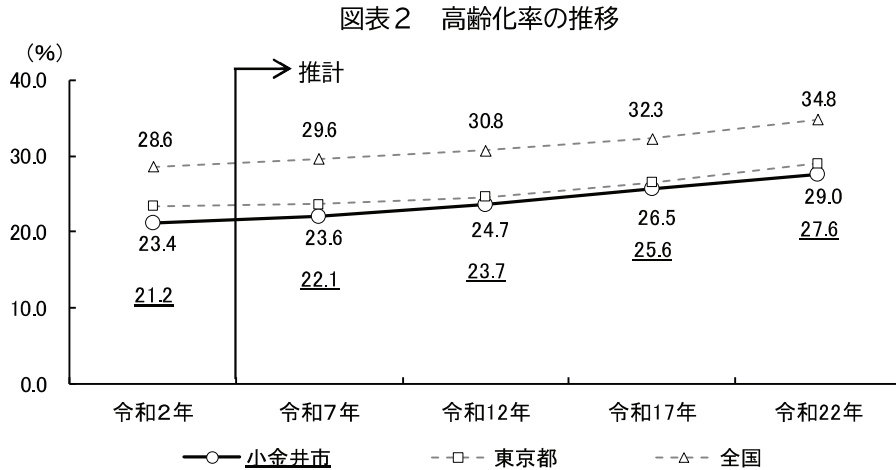


資料：市住民基本台帳（各年10月1日時点）
推計は厚生労働省『地域包括ケア「見える化」システム』（各年10月1日時点）



(2) 高齢化率

市の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、令和2年には21.2%となっており、東京都、全国よりも低い値ですが、緩やかに上昇を続け、令和22年には27.6%になると推計されています。

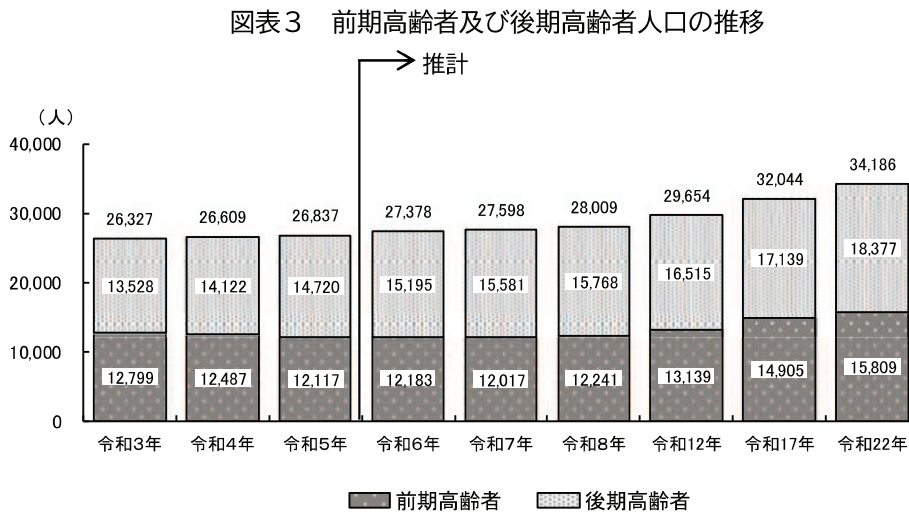


資料：小金井市 厚生労働省『地域包括ケア「見える化」システム』（各年10月1日時点）
東京都・全国 将来の地域別男女5歳階級別人口（国立社会保障・人口問題研究所）

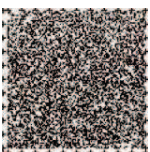
(3) 前期高齢者・後期高齢者

市の高齢者人口推移を前期高齢者（65～74歳）、後期高齢者（75歳以上）に分けてみると、令和3年から令和5年にかけて、前期高齢者は682人減少し、後期高齢者は1,192人増加しています。

また、推計をみると、前期高齢者は令和7年まで減少し続け、令和8年以降は増加傾向に転じると見込まれています。一方、後期高齢者は増加し続ける見込みです。



資料：市住民基本台帳（各年10月1日時点）
推計は厚生労働省『地域包括ケア「見える化」システム』（各年10月1日時点）



2 世帯

市の一般世帯数のうち高齢者のいる一般世帯は増加傾向にあり、令和2年には17,190世帯と、一般世帯数(63,140世帯)の27.2%を占めています。

高齢者のいる一般世帯数の内訳で見ると、高齢夫婦世帯、高齢単身世帯の増加がともに著しく、平成22年から令和2年にかけて約2,000世帯増加しています。

また、一般世帯に占める高齢者単身世帯の割合は平成22年の8.6%から令和2年の9.7%まで1.1ポイント上昇しています。

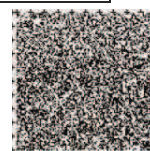
令和2年における市の65歳以上世帯員のいる一般世帯は27.2%、高齢単身世帯の割合は9.7%と、東京都や全国よりも低く、高齢夫婦世帯の割合8.7%は東京都より高くなっています。令和7年度に実施される国勢調査の結果等から、今後の高齢者世帯の増え方を注視していく必要があります。

図表4 高齢者世帯数の推移

項目	平成22年	平成27年	令和2年
一般世帯数	57,613	59,692	63,140
65歳以上の世帯員のいる一般世帯数	15,004	16,400	17,190
うち高齢夫婦世帯数	4,701	5,204	5,493
うち高齢単身世帯数	4,937	5,590	6,111
うちその他の世帯数	5,366	5,606	5,586
一般世帯に占める65歳以上世帯員のいる一般世帯数の割合	26.0%	27.5%	27.2%
一般世帯に占める65歳以上世帯員のいる高齢夫婦世帯の割合	8.2%	8.7%	8.7%
一般世帯に占める65歳以上世帯員のいる高齢単身世帯の割合	8.6%	9.4%	9.7%

令和2年	小金井市	東京都	全国
一般世帯数	63,140	7,216,650	55,704,949
65歳以上の世帯員のいる一般世帯数	17,190	2,131,483	22,655,031
うち高齢夫婦世帯数	5,493	599,352	6,848,041
うち高齢単身世帯数	6,111	811,408	6,716,806
うちその他の世帯数	5,586	720,723	9,090,184
一般世帯に占める65歳以上世帯員のいる一般世帯数の割合	27.2%	29.5%	40.7%
一般世帯に占める65歳以上世帯員のいる高齢夫婦世帯の割合	8.7%	8.3%	12.3%
一般世帯に占める65歳以上世帯員のいる高齢単身世帯の割合	9.7%	11.2%	12.1%

資料：国勢調査（各年10月1日時点）

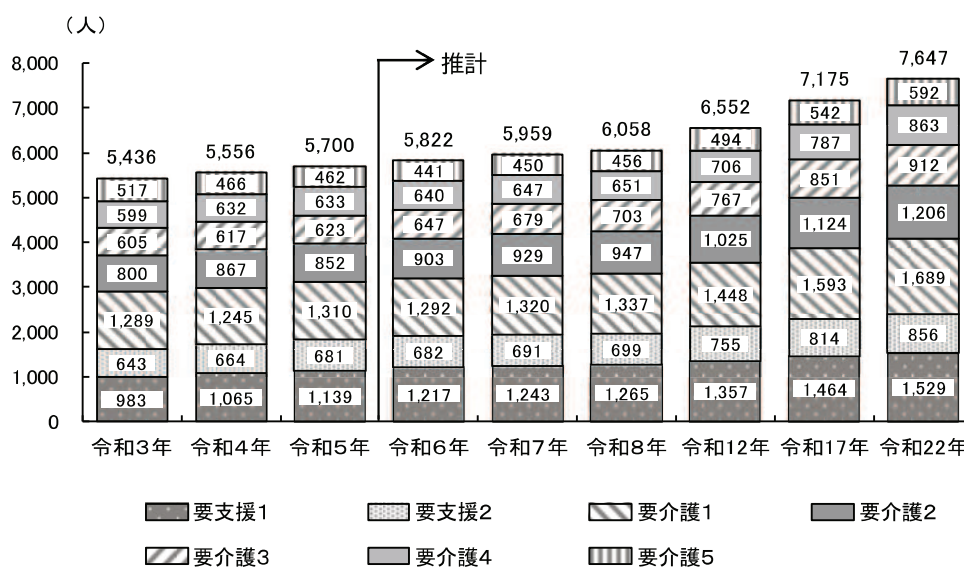


3 要介護・要支援認定者

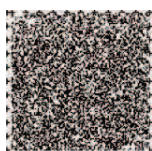
市の要介護・要支援認定者数は増加傾向にあり、令和5年10月1日現在の要介護・要支援認定者数は5,700人となっています。要介護度別でみると、令和5年では、要支援1が1,139人、要支援2が681人、要介護1が1,310人と、軽度者が多くを占めていることが特徴となっています。

前期計画の推計では令和5年の要介護・要支援認定者数は5,525人でしたが、実際は上回っています。

図表5 要介護・要支援認定者数



資料：厚生労働省「介護保険事業状況報告」（各年9月末時点）
 推計は厚生労働省『地域包括ケア「見える化」システム』（各年10月1日時点）



4 認知症高齢者

要介護認定を行う際の参考の1つとされる「認知症高齢者の日常生活自立度」がI以上の方は令和5年3月末現在で4,182人となっています。また、自立度の内訳をみると、IIb、IIIaが700人を超え多くなっています。

東京都が報告している「令和4年度認知症高齢者数の分布調査」に掲載されている認知症出現率を参考に、市の認知症高齢者数を推計すると、令和7年の認知症高齢者は4,646人、令和22年の認知症高齢者は6,026人と見込まれます。

なお、図表6において「認知症高齢者の日常生活自立度」I～Mの合計欄の和が、令和2年が3,936人で、令和5年が3,842人と減少していますが、自立度が不明な「転入・職権」の増加によるもので、認知症高齢者が減少しているものではないと考えられます。

図表6 認知症高齢者の日常生活自立度

【令和5年】

単位：人

項目	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	転入・職権※	総計
男	445	356	170	267	187	69	114	19	94	1,721
女	885	666	318	580	555	193	288	60	246	3,791
合計	1,330	1,022	488	847	742	262	402	79	340	5,512

資料：市介護福祉課（令和5年3月31日集計数値）

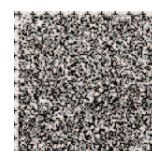
※コロナ禍の特例で認定審査をせず、認定期間を延長したものを

【令和2年】

単位：人

項目	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	転入	総計
男	395	347	156	280	217	66	122	26	7	1,616
女	892	649	284	572	633	193	326	65	22	3,636
合計	1,287	996	440	852	850	259	448	91	29	5,252

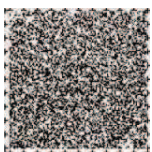
資料：市介護福祉課（令和2年3月31日、集計数値）



第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画
(小金井市地域包括ケア推進計画)

【参考】判定基準

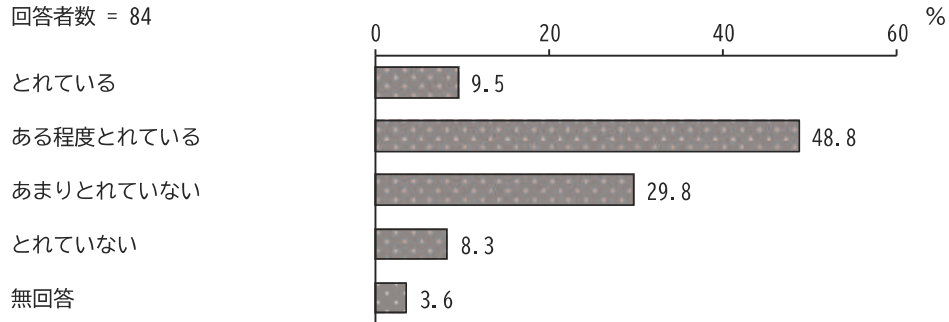
レベル	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIII a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIII に同じ
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等



⑤ 支援をする際のかかりつけ医との連携について 図16

【ケアマネジャー調査】

回答者数 = 84



ウ 在宅医療と介護の連携の推進

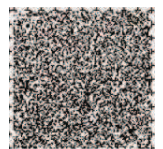
【事業評価から】

在宅医療・介護連携支援室の充実などにより、医療と介護に関わる関係機関の連携構築、研修や情報共有等、顔の見える関係づくりができました。更に広く連携や情報共有をしていくとともに市民に対しても在宅医療についての周知を行っていく必要があります。

在宅医療・介護連携に関する普及啓発は、アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）等について、特に看取りに関して医療・介護従事者と市民向けにそれぞれ講演を行うとともに、リーフレットを作成し周知に努めました。また、市民向け講演については、動画を市公式Youtubeに公開するなど新しい取り組みにも努めました。

【第9期事業計画に向けた課題】

- 医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護を提供することが重要です。(図17)
- 医療との連携において、今後の連携強化に向けて、医療関係者と介護関係者の情報交換の場の確保や情報を共有する場の充実が必要となります。(図18)

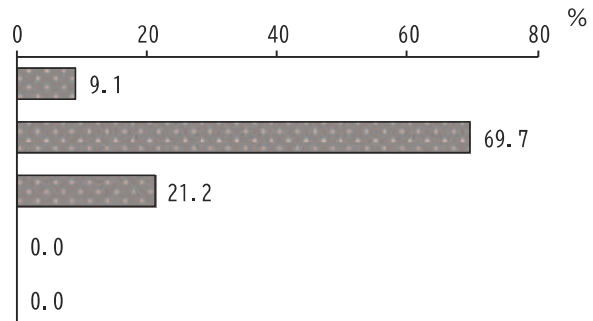


① 在宅療養者への医療・介護は、サービス担当者会議などを通じて連携をしているか 図17

【ケアマネジャー調査】

回答者数 = 66

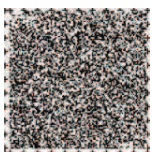
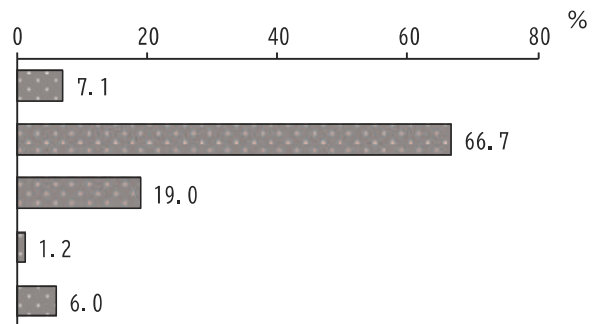
- 十分連携している
- ある程度連携している
- 連携が不十分である
- ほとんど連携していない
- 無回答



【介護保険サービス提供事業者調査】

回答者数 = 84

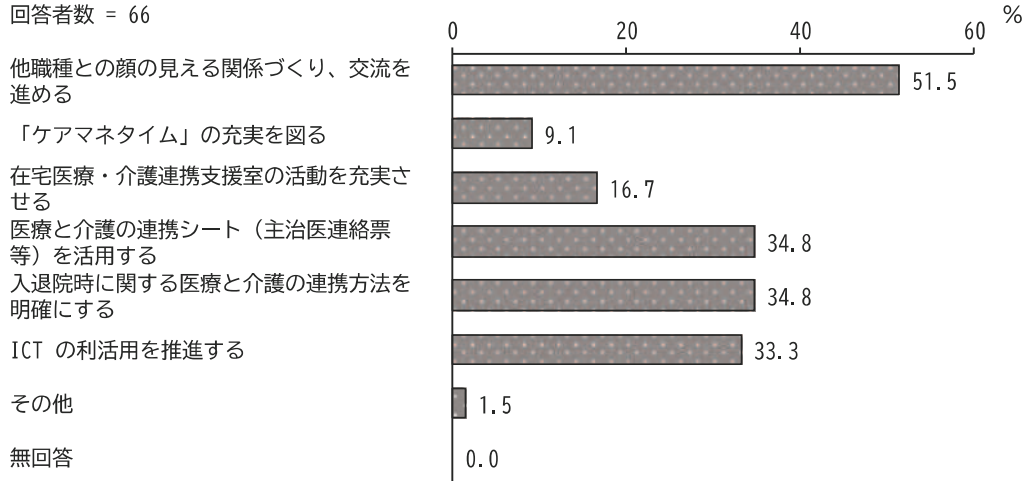
- 十分連携している
- ある程度連携している
- 連携が不十分である
- ほとんど連携していない
- 無回答



② 地域包括ケアシステムの構築における医療・介護の連携の仕組みで必要なこと
 と 図18

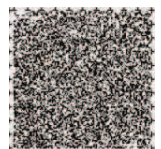
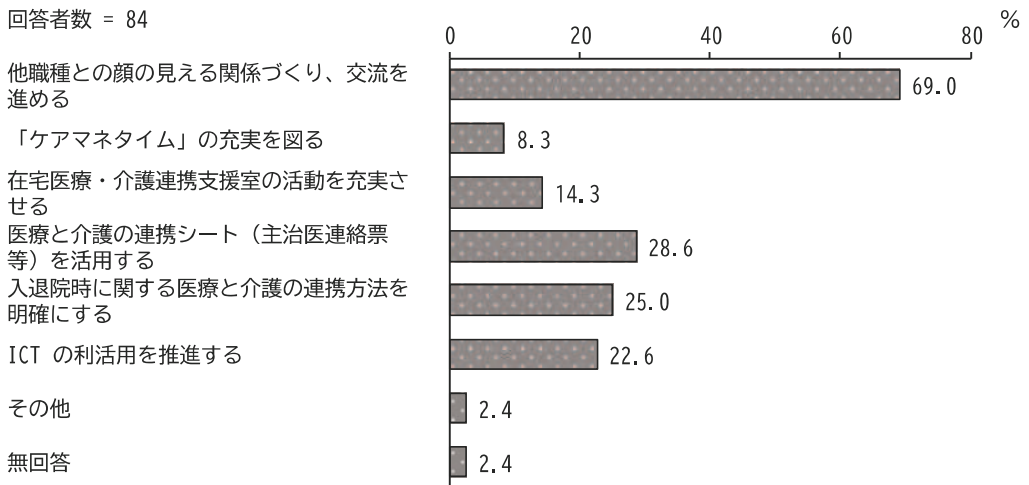
【ケアマネジャー調査】

回答者数 = 66



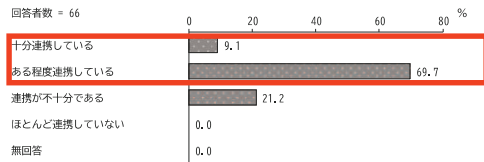
【介護保険サービス提供事業者調査】

回答者数 = 84

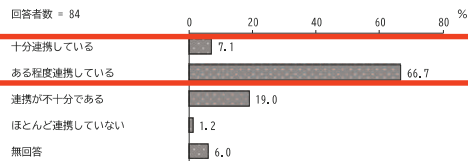


① 在宅療養者への医療・介護は、サービス担当者会議などを通じて連携をしているか 図17

【ケアマネジャー調査】



【介護保険サービス提供事業者調査】



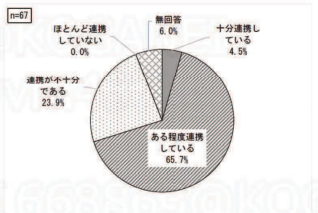
【参考】前計画時 (R2.3)結果

【ケアマネジャー調査】

問 34: 在宅療養者への医療・介護は、サービス担当者会議などを通じて連携していると思いますか。 (SA)

「ある程度連携している」が7割程度です。

	回答数	%
全体	67	100.0
1 十分連携している	3	4.5
2 ある程度連携している	44	65.7
3 連携が不十分である	16	23.9
4 ほとんど連携していない	0	0.0
- 無回答	4	6.0

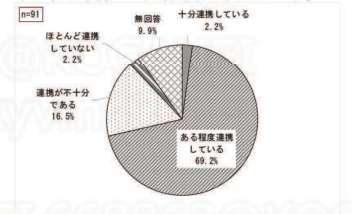


【介護保険サービス提供事業者調査】

問 35: 小金井市民の在宅療養者への医療・介護は、サービス担当者会議などを通じて連携していると思いますか。 (SA)

約7割は「連携している」と回答していますが、不十分との回答も約2割あります。

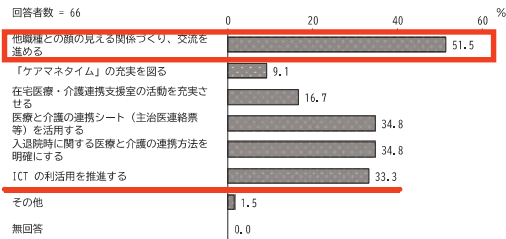
	回答数	%
全体	91	100.0
1 十分連携している	2	2.2
2 ある程度連携している	63	69.2
3 連携が不十分である	15	16.5
4 ほとんど連携していない	2	2.2
- 無回答	9	9.9



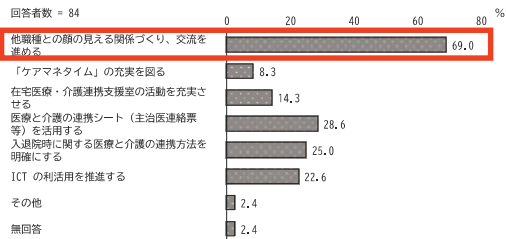
第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画
(小金井市地域包括ケア推進計画)

② 地域包括ケアシステムの構築における医療・介護の連携の仕組みで必要なこと
と 図18

【ケアマネジャー調査】



【介護保険サービス提供者調査】

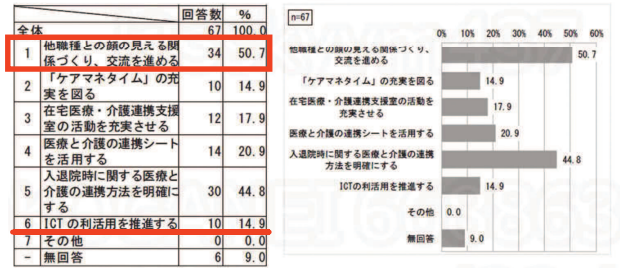


【参考】前計画時（R2.3）結果

【ケアマネジャー調査】

問 35（1）：2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築が求められていますが、その中で医療・介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。／連携の仕組みづくり（2つまで選択）（MA）

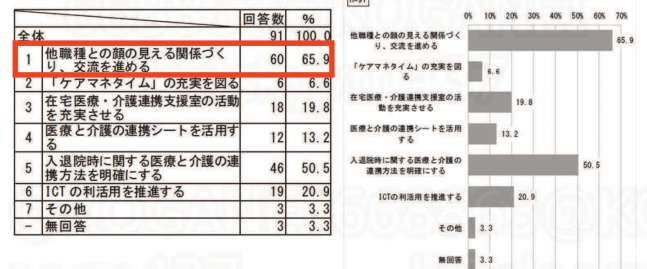
「他職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」が最も多く、次いで「入退院時に関する医療と介護の連携方法を明確にする」であり、連携の円滑化や連携方法の明確化を必要とする傾向です。



【介護保険サービス提供者調査】

問 34（1）：2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築が求められていますが、その中で医療・介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。／連携の仕組みづくり（2つまで選択）（MA）

「他職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」との回答が6割を超えています。



第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画
(小金井市地域包括ケア推進計画)

No	事業名	事業概要	担当課
20	徘徊高齢者の探索事業の継続	認知症の方の身元不明等の事故を防止するとともに、その家族等の精神的負担の軽減を図るため、位置情報が検知できる発信機の貸与等を実施します。 また、靴にGPS発信機を入れて利用できる専用の靴も引き続き対応します。 さらに、市内商店会と連携し、行方不明高齢者捜索協力支援アプリの普及啓発等に努め、地域における捜索協力体制の強化を図ります。	介護福祉課

No	事業名	事業概要	担当課
2-12	介護者の負担軽減の推進 ※本計画再掲	高齢者や認知症の方を介護する家族の方を対象に、相談、介護教室、交流会等の機会を通して、介護による身体的・精神的負担の軽減を図ります。交流会等については、性別・年代を問わず参加できるようなテーマ設定を図るなど、幅広く参加を促せるよう努めます。 認知症の方と家族の方に対しては希望する在宅生活を継続できるよう、一体的支援事業を実施します。 また、緊急を要する理由で介護者が介護できない時に、介護が必要な方を一時的に施設で介護します。	介護福祉課

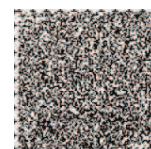
(3) 在宅医療と介護の連携の推進

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域における在宅医療・介護を一体的に提供できる体制の構築を推進します。

また、もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する「人生会議（アドバンス・ケア・プランニング＝ACP）」や、看取り等のACPに関わる情報について、医療・介護関係者や市民に対する普及啓発を行います。

No	事業名	事業概要	担当課
21	医療資源マップの充実	医療資源を調査し、医療資源マップとしてまとめ、情報を必要とする市民や、関係機関に配布し普及啓発を図ります。	介護福祉課

No	事業名	事業概要	担当課
22	在宅医療・介護連携支援室の充実	医療・介護関係者を対象とした在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営するとともに、多職種が参加する研修等を実施することにより、連携の促進を図ります。	介護福祉課



第9期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画
(小金井市地域包括ケア推進計画)

【新規事業】

No	事業名	事業概要	担当課
23	在宅医療・介護連携推進に関する検討の実施	在宅医療・介護連携推進会議や、同会議に設置された4部会(※)において、部会に応じた課題の検討や、多職種連携研修等の企画・実施等を通じて、在宅医療・介護連携を推進します。	介護福祉課

※日常療養・多職種連携研修部会、入退院支援部会、急変時対応・看取り支援部会、ICT連携部会

No	事業名	事業概要	担当課
24	在宅医療・介護連携に関する普及啓発の充実	在宅医療・介護連携に関する講演会、在宅療養に関するリーフレットの配布等を実施し、市民に対する普及啓発を行います。	介護福祉課

【重点取り組み事業】

No	事業名	事業概要	担当課	
25	ACP(人生会議)等の普及啓発の充実	在宅医療・介護連携においてACPに係る研修等を実施し、関係者間での理解促進に努めます。 また、市民向けにも在宅での看取りの周知等を通じて、既存の催し等を活用したACPの普及啓発を図ります。	介護福祉課	
成果指標		実績	見込	目標値
		令和4年度	令和5年度	
関係者・市民向け講演会等回数		3	3	3

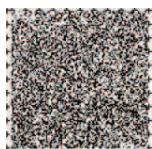
(4) 生活支援体制整備の推進

地域ケア会議、生活支援事業協議体(1層・2層)で検討されている地域課題の解決に向け、生活支援体制の更なる充実を図ります。

また、様々な地域資源を有効に活用し、地域住民の社会参加の場として機能するよう生活支援コーディネーターを中心に関係機関と連携し支援します。

【重点取り組み事業】

No	事業名	事業概要	担当課
26	地域課題検討の協議の充実	第1、2層生活支援協議体をそれぞれ開催します。 圏域レベルの地域ケア会議を兼ねる第2層協議体では、圏域で生じている課題に対して、関係する地域住民や介護事業所、商店会等の地域の社会資源と第2層生活支援コーディネーターを中心とした検討を行います。 第1層協議体では、第2層協議体での検討内容等を整理し、市全体で取り組むべき課題の整理等を図ります。	介護福祉課



令和 5 年度における各事業実施実績について

※ 評価基準

- A：ほぼ事業内容を達成した。
 B：改善、検討を要する点はあるが、事業内容をある程度達成した。
 C：事業内容を達成したとは言えず、現状について大きな課題がある。
 D：未実施

No.	取組	事業概要	事業区分	令和 5 年度 実施予定	評価	実施実績
①-1	小金井市医療資源マップの作成	市民に医療資源に関する情報を共有するため、医療マップを作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	A	改訂作業を行うとともに、市HPへの掲載、関係機関への配架依頼、市民への配布等を実施した。
①-2	介護サービス事業所一覧の作成	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。	ア 地域の医療・介護の資源の把握	配布・検討	A	事業所の新設・廃止等の都度改訂。介護福祉課窓口で配布
①-3	患者基本情報シートの作成	入院時に病院が使用することを想定した患者基本情報シートを作成し、ケアマネジャーへ配付の上、運用を開始する。	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	—	—	令和 3 年度中に取組廃止を決定済み
②-1	在宅医療・介護連携推進会議の実施	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	実施	A	在宅医療・介護連携推進会議を 3 回実施 また各部会を計 15 回実施
②-2	小金井もの忘れ相談シートの活用	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	市ホームページで普及啓発を行うとともに、民生委員による 75 歳・80 歳訪問の際に「高齢者福祉のしおり」を配布しており、そちらにも掲載し、普及啓発を図っている。その他介護福祉課窓口等にて配布
②-3	主治医連絡票の活用	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	B	市ホームページに掲載し、普及啓発を図った。 令和 3 年度から「介護支援専門員（ケアマネジャー）向け書式等」のページを作成し、もの忘れ相談シート等と併せて普及啓発を実施
②-4	ケアマネタイムの活用	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	運用・普及啓発	A	4 月に医師会から情報提供を受け、同月中にケアマネ向けにメールにて配信済み。希望者には介護福祉課窓口でも配布

No.	取組	事業概要	事業区分	令和5年度 実施予定	評価	実施実績
②-5	情報共有研修会の実施	医療・介護事業者等の関係機関の情報共有に関する研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	実施	A	別紙「資料2-2」のとおり
②-6	在宅医療・介護連携支援室の設置	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援	実施	A	支援室を設置し、医療・介護関係者からの相談等に対応 詳細は、別紙「資料4」のとおり
②-7	在宅医療ケア勉強会の実施	医療・介護事業者等の関係者に対して在宅医療・介護連携に関する研修等を実施する。	カ 医療・介護関係者の研修	3回以上実施	A	6回実施 詳細は、別紙「資料2-2」のとおり
②-8	北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	普及啓発	B	更新に係る確認依頼等がなかったため、特段の対応なし。必要に応じて市民等へ案内を実施
②-9	近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。	ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	実施	A	支援室にて、電話・訪問・MCSのグループにて連携・情報共有を行った。 東京都在宅療養支援窓口取組推進研修に参加し、他自治体の事例について学ぶとともに、グループワークにて他自治体の支援室等と情報共有を行った。
③-1	お元気サミットin小金井の開催	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。	キ 地域住民への普及啓発	講座満足度 78%	A	令和5年11月8日及び9日に小金井 宮地楽器ホールにて「お元気サミット・介護みらいフェス」を実施 来場者 234人 講座満足度 96.88%
③-2	在宅療養についてのリーフレットの作成	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。	キ 地域住民への普及啓発	配布	A	令和2年度に改訂を行い、市ホームページへの掲載及び介護福祉課窓口等にて配布 「看取りについてのリーフレット」を改訂し、市ホームページへの掲載及び介護福祉課窓口等にて配布

令和5年度小金井市在宅医療・介護連携推進に係る研修の実施状況について

1 在宅療養推進事業

No.	開催日	名称	内容	講師 (敬称、所属等省略)	参加人数
1	令和5年10月6日	I C T研修会	M C Sのお悩み解決しましょう！	I C T連携部会	19人
2	令和5年11月15日	第14回多職種連携研修会	高齢者の虐待対応について	かわさき社会福祉事務所 川崎 裕彰 (社会福祉士)	65人
3	令和5年12月15日	看取り講演会 (第1回)	人生の最後に過ごしたい場所	小金井ファミリークリニック 大井 裕子 (医師)	29人
4	令和6年2月29日	看取り講演会 (第2回)	がん・非がんの看取りへの対応で困っていることを話そう！	小金井ファミリークリニック 大井 裕子 (医師)	22人
5	令和6年2月16日	第15回多職種連携研修会 (三部会合同研修会)	退院時カンファレンスってこんなことをしています！	I C T連携部会、多職種連携研修 部会、入退院支援部会	49人

2 在宅医療・介護連携推進事業

No.	開催日	名称	内容	講師 (敬称、略歴省略)	参加人数
1	令和5年5月16日	第28回在宅医療ケア勉強会	訪問STが教える、声から身体を整える方法～在宅を支える事例～	えいる訪問看護ステーション 大橋 恵子 (言語聴覚士)	17人
2	令和5年8月3日	第29回在宅医療ケア勉強会	訪問診療と多職種連携	小金井ファミリークリニック 金 昇赫 (医師)	25人
3	令和5年9月21日	第30回在宅医療ケア勉強会	在宅での糖尿病患者との関わり	えいる訪問看護ステーション 東元 亜希 (看護師)	14人
4	令和5年11月22日	第31回在宅医療ケア勉強会	地域で支える認知症	えいる訪問看護ステーション 足助 由梨 (看護師)	16人
5	令和6年1月22日	第32回在宅医療ケア勉強会	地域で支える認知症～小金井市ではどうしていく？～」 対談形式	小金井ファミリークリニック 大井 裕子 (医師) えいる訪問看護ステーション 足助 由梨 (看護師)	22人
6	令和5年3月14日	第33回在宅医療ケア勉強会	訪問診療導入の仕方と病院との連携	小金井ファミリークリニック 富永 智一 (医師)	18人

令和6年度における各事業実施予定について

※ 小金井市在宅医療・介護連携推進のための基本方針（令和6年4月）から抜粋

【基本理念①】市民の視点に立ち、ともに考えながら、地域で安心して暮らせるよう医療・介護を提供する。

取組	①-1 小金井市医療資源マップの作成			
事業概要	市民に医療資源に関する情報を提供するため、医療資源マップを作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作成・配布	配布・検討	→	作成・配布

取組	①-2 介護サービス事業所一覧の作成			
事業概要	市民に介護資源に関する情報を提供するため、介護サービス事業所一覧を作成の上、配布する。			
事業区分	ア 地域の医療・介護の資源の把握			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作成・配布	→	→	→

取組	①-3 ACP（看取り等）に関する研修・講演の実施			
事業概要	将来の変化に備え、本人や家族等の希望に応じた医療・ケアが受けられる環境整備のため、研修・講演等を実施する。			
事業区分	ウ 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	実施	→	→	→

【基本理念②】 医療・介護の関係者が相互の立場を理解し、協力する。

取組	②-1 在宅医療・介護連携推進会議の実施			
事業概要	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状を把握・共有し、課題の抽出、対応策を検討する。			
事業区分	イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	実施	→	→	→

取組	②-2 小金井もの忘れ相談シートの活用			
事業概要	認知症に関する家族・相談機関が連携して支援を続けるための相談シートの普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-3 主治医連絡票の活用			
事業概要	主治医とケアマネジャーが共有し連携を取りやすくするため、連絡票の普及啓発を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-4 ケアマネタイムの活用			
事業概要	医師と連絡が取りやすい方法、曜日、時間帯等を示した一覧の周知を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	運用・普及啓発	→	→	→

取組	②-5 ICTの利活用の推進			
事業概要	事務負担の軽減や円滑な連携のため、ICTに係る情報提供や研修の開催、関係機関同士の情報共有の支援等を行う。			
事業区分	エ 医療・介護関係者の情報共有の支援			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	実施	→	→	→

取組	②-6 在宅医療・介護連携支援室の設置			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する相談窓口を設置・運営することにより、連携の取組を支援する。			
事業区分	オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	実施	→	→	→

取組	②-7 在宅医療ケア勉強会の実施			
事業概要	医療・介護事業者等の関係者に対して主に在宅医療に関する医療知識に関する研修等を実施する。			
事業区分	カ 医療・介護関係者の研修			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	3回以上実施	→	→	→

取組	②-8 北多摩南部保健医療圏リハビリテーション実施機関ナビの作成協力及び普及啓発			
事業概要	北多摩南部保健医療圏地域リハビリテーション支援センターが作成する実施機関ナビの作成協力・普及啓発を行う。			
事業区分	(旧)ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	普及啓発	→	→	→

取組	②－９ 近隣市在宅医療・介護連携支援室等との情報交換			
事業概要	近隣市の在宅医療・介護連携支援室職員との情報交換を行い、自治体間での連携を強化する。			
事業区分	(旧) ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携			
成果指標	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	検討・実施	実施	→	→

取組	②－１０ 多職種連携研修の実施			
事業概要	医療・介護関係者の相互理解を深め、顔の見える関係性を構築することにより、連携の推進を図る。			
事業区分	カ 医療・介護関係者の研修			
成果指標	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	企画・実施	→	→	→

取組	②－１１ 入退院時における関係者間の必要情報の整理			
事業概要	職種ごとの入退院時に必要な情報を整理し、情報の提供体制を整備することにより、入退院支援を行う。			
事業区分	カ 医療・介護関係者の研修			
成果指標	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	検討	検討・実施	運用	→

【基本理念③】 本人・家族に適切に情報を提供し、自己決定を支える。

取組	③－１ お元気サミット in 小金井の開催			
事業概要	在宅医療・介護連携に関する情報の普及啓発のため、講演会、シンポジウム等を開催する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
	講座満足度 80%	講座満足度 81%	講座満足度 82%	講座満足度 83%

取組	③-2 在宅療養についてのリーフレットの作成			
事業概要	在宅療養に関する普及啓発のため、在宅療養リーフレットを作成の上、配布する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作成・配布	配布	→	→

取組	③-3 看取りについてのリーフレットの作成			
事業概要	ACPの普及啓発の一環として、急変時の対応と看取りに向けた市民への理解を広げるため、リーフレットを作成する。			
事業区分	キ 地域住民への普及啓発			
成果指標	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作成・配布	→	→	→

小金井市在宅医療・介護連携支援室 令和5年度 事業概要

1 在宅医療・介護連携に関する相談件数

医療機関				介護事業所				合計
病院	診療所	歯科	薬局	ケアマネジャー	訪問看護	訪問介護	その他	
4	2	1	5	12	9	0	10	43

2 在宅医療・介護連携に関する研修の実施状況

	開催日時	内容	参加者											合計
			医療関係者						介護関係者					
			医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW	その他	ケアマネジャー	訪問看護	介護職	その他		
第1回	令和5年5月16日	訪問STが教える、声から身体を整える方法～在宅を支える事例～	1	0	3	0	0	0	0	10	1	1	1	17
第2回	令和5年8月3日	訪問診療と多職種連携	1	0	4	0	0	0	0	14	2	1	3	25
第3回	令和5年9月21日	在宅での糖尿病患者との関わり	1	0	1	0	0	0	0	5	4	2	1	14
第4回	令和5年11月22日	地域で支える認知症	1	0	3	0	0	0	0	9	0	0	3	16
第5回	令和6年1月22日	地域で支える認知症～小金井市ではどうしていく？～対談形式	0	0	2	0	0	0	0	10	4	3	3	22
第6回	令和6年3月14日	訪問診療導入の仕方と病院との連携	2	0	5	0	0	0	0	4	1	1	5	18

3 関係機関の情報共有に関する研修の実施状況

	開催日時	内容	参加者											合計
			医療関係者						介護関係者					
			医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW	その他	ケアマネジャー	訪問看護	介護職	その他		
第1回	令和5年10月6日	ICT研修会	2	5	1	1	1	0	0	3	0	2	4	19
第2回	令和6年2月16日	退院時カンファレンスってこんなことをしています！（三部会合同研修会）	5	3	8	6	1	0	0	18	0	0	8	49

4 その他

- ・在宅医療ケア勉強会(旧ケアマネ勉強会)開催(5/16,8/3,9/21,11/22,1/22,3/14)
- ・会議等出席(小金井市在宅医療・介護連携推進会議、三市看護責任者及び地域医療支援会議、武蔵野赤十字病院会議杏林在宅医療緩和ケアカンファレンス、ほか)
- ・視察等(武蔵野市・西東京市・国分寺市・三鷹市ほか)
- ・部会運営(日常療養支援・多職種連携研修部会、入退院支援部会、急変時対応・看取り支援部会、ICT連携部会)
- ・多職種連携研修会の開催準備等
- ・看取り講演会開催 等
- ・在宅療養支援窓口の会(窓シナの会)開催

小金井市在宅医療・介護連携推進会議各部会における検討状況について

	日常療養支援・多職種連携研修部会	入退院支援部会	急変時対応・看取り支援部会	I C T連携部会
開催日	令和5年度第4回：令和6年3月15日（金） 令和6年度第1回：令和6年5月24日（金）	第1回：令和5年5月16日（木）	令和5年度第4回：令和6年3月13日（水） 令和6年度第1回：令和6年5月29日（水）	第1回：令和6年4月17日（水）
目指す姿	本人が安心できる場所で専門職の支援を受けながら穏やかに暮らすことができる。	入退院の際に、医療機関・介護事業所等が情報共有を行うことで、本人・家族が望む場所で、不安なく穏やかに日常生活を過ごすことができる。	各ステージで食支援に対応できるチームが増えるとともに、本人・家族が納得できる看取りに向けて準備ができる。また、自宅か病院かで心が揺れていても、希望に応じた選択ができるように体制を整える。	【部会としての目指す姿】 医療と介護の連携をI C Tにてそれぞれ円滑に行うようにする。
検討状況の概要	【令和5年度第4回】 ①令和5年度多職種連携研修会の振り返り（高齢者虐待研修）について共有した。 ②令和6年度多職種連携研修の方向性について検討を行った。 ②日常療養時における目指す姿達成に向け、検討課題の設定を検討した。 【令和6年度第1回】 ①令和6年度第1回多職種連携研修の研修内容について検討を行った。 ②日常療養時における課題の検討を行った。	退院支援・退院調整フロー図について、以下のとおり共有、検討を行った。 ①ケアマネジャーヒアリング報告 ②フロー図以外の情報共有の資料の作成について	【令和5年度第4回】 ①令和5年度お元気サミットの振り返りについて共有した。 ②令和6年度の部会の活動内容について検討を行った。 【令和6年度第1回】 ①令和6年度のお元気サミットの内容について検討を行った。 ②看取りリーフレットの改訂について、内容を検討した。 ③食支援にかかるアンケートについて、内容を検討した。	①退院時カンファレンス研修の振り返りについて共有した。 ②令和6年度のI C T研修会について検討を行った。
決定事項等	令和6年度第1回多職種連携研修について、以下のとおり決定した。 日時：令和6年11月27日（水） 場所：萌え木ホールとWEBのハイブリッド 内容：高齢者虐待の事例ごとのフロー（仮） 講師：川崎裕彰社会福祉士（前年と同じ） また、日常療養時の検討課題及び背景の確認として、①社会情勢、市民の個人意識②支援者のコミュニケーションスキルの向上とし、次回以降具体策を検討。	ケアマネジャーが取得する「退院・対処加算」について、実態として取得可能な事業所が多いであろうことから、市（保険者）として取得支援を行う。 また、ヒアリング結果等に基づき、具体的な情報連携シートではなく、まずは入退院時における各職種の動き等がわかる資料を作成することとなった。	今年度もお元気サミット・介護みらいフェスにて市民講座を実施する。 看取りリーフレットについて、軽微な修正を加え、改訂する。 食支援にかかるアンケートについて、内容の確認を行い、三師会、事業者連絡会等を通じて調査依頼を行う。	I C T研修会を次のとおり実施予定 ①M C S研修会 日時：令和6年10月11日（金）午後8時から 場所：小金井市薬剤師会 講師：I C T連携部会 ②I C T研修会 内容：令和6年度診療・介護報酬改定におけるI C Tに関する部分について 日時・場所：未定 講師：調整中
次回	第2回：令和6年10月23日（水）	第2回：令和6年9月19日（木）	第2回：令和6年8月27日（火）	第2回：令和7年7月17日（水）

会 議 録				
令和5年度第4回 日常療養支援・多職種連 携研修部会	日 時	令和6年3月15日(金) 午後7時～午後8時10分	場 所	WEB会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション) 副部会長 柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス) 部会員 穂坂 英明 (前原診療所) 部会員 黒米 哲也 (西の久保歯科) 部会員 田村 亮一 (みなみ調剤薬局) 部会員 岩井 美香 (のがわ訪問看護ステーション) 部会員 久野 紀子 (にし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主査 浜松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	古屋 裕康 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 田代 誠子 (在宅介護サービスエンゼルの会)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 令和5年度多職種連携研修会の振り返り				
(2) 令和6年度多職種連携研修会の方向性について				
(3) 日常療養時における課題等の検討				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

2 議題

(1) 令和5年度多職種連携研修会の振り返り

- ・ 事務局から第14、15回研修会の概要について説明後、第14回の研修会の感想等について意見交換。

ア 高齢者虐待の通報について、違っていたらどうしようと思うこともあるが、講師から、通報するか否かの判断は非常に難しいという話が聞け、周りもそうなのだと安心した面もあった。

イ 患者への説明の仕方等、相手の理解度に応じて行う必要があるなどの再確認することができた。

ウ 内容も分かりやすく、まずは相談することが大事であると感じた一方、日々対象者に接している側としては、通報後にどのような対応がなされるのかという部分が気になる、今回を導入偏とし、通報後の対応等をまた実施してもよいのではないかと。

また、アンケート結果の回収率が低いことが気になった。

→ アンケートの回収率については、他の研修でも同程度で、医療職者からの回答が低い傾向がある。回収結果の活用法等具体的に伝えれば、協力してもらえる可能性が増えるかもしれない。

エ これまでは虐待事例に接するという機会がないように感じていたが、研修を受けて、もしかするとそうだったかもしれないと思うようなことに気づき参考となった。また、アンケート結果などからもう少し掘り下げて再実施してもよいテーマなのかなと感じた。

オ 事業所内でも（高齢者虐待の疑い気づいても）言うことができないスタッフもいると思われる中で、守秘義務より通報義務のほうが強いということを示してもらえたことが参考となった。

カ 良い講師を選定できたことが良かったと思っている。

(2) 令和6年度多職種連携研修会の方向性について

① 第1、2回部会で決定した内容の取り扱いについて

ア 4月からコロナに関する医療体制が大きく変わる事となるが、これに伴いどのような変化が起きるのかを踏まえてから再検討してもよいのではないかと。

イ 4月以降、感染の拡大が見込まれるようであれば、事前に消毒であるとか予防の部分について情報共有しておくことも必要なのではないかと。

ウ 4月以降の対応について考えることは非常に大切だとは思いますが、本研修の

内容として考えた場合、前回申込者が少なかったことを考慮する必要がある
と考える。その点からいえば、違ったテーマを設定するのも一案ではないか。
エ 感染症に関しては、定期的実施してもよいテーマであるとは思っている。

【ア～エ等の意見を踏まえて、以下の通り決定】

- ・ 1、2回で設定したテーマ（新型コロナウイルス感染症を経験して）については、一旦白紙とする。
- ・ 感染症に関するテーマについては、4月以降の状況を鑑みて必要に応じて再設定する。

② 高齢者虐待研修の取り扱いについて

ア アンケート結果を見ると、多職種の方が参加していることがうかがえる。
本研修に関しては、多職種の方が参加することが大事だと思うので、広く興味を持ってもらえる高齢者虐待というテーマの深掘りは良いと思う。ただし、多職種が参加してくれるのであれば、高齢者虐待のテーマにこだわらなくてもよいとも感じる。

イ 前回の研修は導入のようなものとし、実践編として、実際の事例に基づいた内容を行えば身近に感じてもらえたりするのではないだろうか。

ウ 業務を実施する中で、多重困難を抱える家庭と接することかある。解決は難しいとしても、多職種で考えるような機会を持ってないか。

エ 高齢者や精神疾患も含めて、講師が可能であれば「ケガ」という視点からアプローチできないものか。

【ア～エ等の意見を踏まえて、以下の通り決定】

- ・ 「高齢者虐待」をテーマとした研修については、次年度も継続することとし、詳細は次年度第1回部会等にて検討する。

(3) 日常療養時における課題等の検討

資料3に基づき、来年度はどの部分について検討すべきかについて意見交換

ア STEP2に戻ったうえで、②については現状MCSの活用でできているとも思えるので、③か④に対して検討を進めていけばよいのではないか。

イ ③と④を比べた場合、④が明らかになったほうが③が検討しやすいように思う。

ウ 職場での指導の際に、ホープ（主観的に求めるもの）とニーズ（客観的に求

めるもの) を分けているが、ニーズをどこまで把握できるかについては難しい面もあるかもしれない。

エ STEP 5か2かでいえば2、2でも③か④でいえば④というのは同感である。ただし記載にあるニーズの詳細な把握や区割りの明確化については、どのような意見を出せばよいか具体化してほしい。

→ STEP 2を検討した際にも、事前課題等を出していただいた意見をとりまとめているので、各項目について詳細な検討までは至っていない。④であれば、職種ごとに④に関する現状について事前課題等でご意見いただいた上で、次回以降の部会でご検討いただきたい。

【ア～エ等の意見を踏まえて、以下の通り決定】

- ・ STEP 2の④「本人・家族のニーズの詳細な把握、役割の明確化」について、次回以降検討することとし、検討に当たり職種ごとの現状について、事前課題等で集約する。

3 その他

次回日程 令和6年5月24日(金) 19時から

開催方法 対面・WEB混合開催を予定

会 議 録				
令和6年度第1回 日常療養支援・多職種連 携研修部会	日 時	令和6年5月24日(金) 午後7時～午後8時10分	場 所	WEB会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 伊藤 直樹 (みずたま介護ステーション) 副部会長 柳堀 明久 (陽なたりハビリデイサービス) 部会員 穂坂 英明 (前原診療所) 部会員 黒米 哲也 (西の久保歯科) 部会員 宮下 直也 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 田村 亮一 (みなみ調剤薬局) 部会員 岩井 美香 (のがわ訪問看護ステーション) 部会員 久野 紀子 (にし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課包括支援係主査 浜松 俊彦 介護福祉課包括支援係主事 原 千咲 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	田代 誠子 (在宅介護サービスエンゼルの会)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 令和6年度日常療養支援・多職種連携研修部会活動予定について				
(2) 令和6年度第1回多職種連携研修会について (高齢者虐待にかかる研修内容について)				
(3) 日常療養時における課題等の検討				
3 その他				
次回日程について				
1 開会				

2 議題

- (1) 令和6年度日常療養支援・多職種連携研修部会活動予定について
事務局から年間活動予定案を示し、確認・承認。

- (2) 令和6年度第1回多職種連携研修会について
(高齢者虐待にかかる研修内容について)
ア 前回の部会(昨年度)で、高齢者虐待をテーマとすることを決定していたため、内容について以下の通り検討・決定。
 - (ア) 講師については、昨年と同じほうが内容について踏み込みやすい。
 - (イ) 2、3件の事例を含めた検討をしたい。
 - (ウ) 口腔内の状態から虐待を疑われるケースを検討できると、歯科医としては興味深い研修になる。
 - (エ) 前回の振り返りしたうえで、事例検討ができるとより多くの方が理解しやすい研修会になると思う。
 - (オ) 虐待発見後の動きについて検討したい。
 - (カ) 虐待の概要や虐待か否かの判断基準、通報後の動きやかかわり方について知りたい。
 - (キ) 経済的虐待やネグレクトなどの目に見えづらい虐待を紹介いただきたい。
 - (ク) 薬剤師の立場からは、虐待に携わることが多くないため、代表的な事例を含めてほしい。
 - (ケ) 認知症の方が家族から経済的虐待を受けており成年後見人をつけたケースでは、その後適切な対応をしたことで、必要なサービスを受けられたといった事例もあるようだ。他市のケースかもしれないがそのようなケースの流れを知りたいと思う。
 - (コ) メインとして身体的虐待の事例や症例について研修を受けたい。さらにプラスとして、経済的な虐待について検討するのはどうか。

【(ア)～(コ)等の意見を踏まえて、以下の通り決定】

- ・ 虐待の4類型のうち、高齢者に多い身体的虐待、心理的虐待、経済的虐待について虐待発見から解決までのフローを内容として進める。
- ・ 事例については具体的でなくても、なるべく多くの職種が関わった事例について検討する。
- ・ 講師は昨年度同様、川崎裕彰氏に事務局から依頼する。

イ 開催方法について、ハイブリッド形式で決定。

ウ 開催時期について、11月と3月の2回で決定。

⑦ 11月開催の第1回については、事務局が会場確保と講師のスケジュール確認を行い、候補日をいくつかMCSにて連絡する。

(3) 日常療養時における課題等の検討

資料を用いてそれぞれの回答を共有。伊藤部会長より以下のとおり補足説明あり。

ア 社会資源の不足によって介護保険以外のことにも対応する現状。ケアマネジャーが多職種に問題の責任の振り分けをし切れていないことが課題であり、原因としては、問題の多様化や家庭内での問題の重なり、ITの発達が考えられる。

→それぞれの回答を踏まえ、「課題」及び「課題が生じている背景」について、

①社会情勢、市民の個人意識

②支援者のコミュニケーションスキル等の向上

の2つに大別できることを確認。

文言等を事務局にてまとめ、次回部会にて具体策を検討する。

3 その他

次回日程 令和6年10月23日(水) 19時から

会 議 録				
令和6年度第1回 入退院支援部会	日 時	令和6年5月16日(木) 午後7時5分 ～午後8時10分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	部会長 執行 真之 (ひがこ訪問看護ステーション) 副部会長 出川 恵美 (居宅介護支援事業所つきみの) 部会員 竹田 溪輔 (竹田内科クリニック) 部会員 瀬口 秀孝 (桜町病院) 部会員 菊田 拓也 (菊田歯科医院) 部会員 水越 新人 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 佐藤 雅彰 (アトム薬局) 部会員 高橋 徹 (小金井ひがし地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課主査 濱松 俊彦 介護福祉課包括支援係主事 原 千咲 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	部会員 古田 菜々 (小金井リハビリテーション病院) 部会員 天野 秀達 (花物語こがねいナーシング)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 小金井市退院支援・退院調整フロー図に係る検討				
ア ケアマネジャーヒアリング報告				
イ 退院時の職種ごとの連携状況について				
ウ 作成する資料(表)について				
3 その他				

1 開会

2 議題

(1) 小金井市退院支援・退院調整フロー図に係る検討

ア ケアマネジャーヒアリング報告

前回部会で、ケアマネジャーが算定する「退院・退所加算」を軸に入退院連携を進めることと決定したことから、ケアマネジャーにヒアリングを実施。実施結果について以下のとおり報告。

- (7) 市内の取得状況について、概ね半数以下となっている。また、少人数事業所と大人数（4人以上）の事業所では取得率に差異が生じている。
- (8) 取得していない事業所に関しても、退院時に病院と連携しないことはあり得ない。
- (9) 退院・退所加算様式を退院時の連携に使用することは無い。医療職者は診療情報提供書が、看護職は看護サマリーがそれぞれの職種同士でやり取りが行われているため、加算様式を使用する理由がない。退院後作成するケアプランについては共有する。
- (10) ヒアリング結果に伴い、同連携様式を退院時連携に使用している多自治体に状況を聞き取った結果、活用されているとは言い難いとの印象がある。

イ 退院時の職種ごとの連携状況について

ケアマネジャーヒアリングにおいて、ケアマネ視点からの連携状況を聞き取ったため内容を報告。その後各職種からの退院時連携等の状況を確認。

- (7) 市内病院とケアマネジャーとの連携がスムーズに行われているにもかかわらず、退院・退所加算がなされていないのは勿体ない。退院が決定した時点で電話連絡をしているので、少なくとも一回はカンファレンスを行うようなルーティーンとして設定するのはどうか。また、大病院は窓口が不明なことが多く、コンタクトを取りづらいとの意見があるが、一度果敢にコンタクトを取り各病院の窓口を市内関係者で共有するなど工夫したい。
- (8) スケジュール調整上、退院時に必ずケアマネジャーに同行してもらうことは厳しい状況。患者本人、患者家族、ケアマネジャー、訪問看護師、医師で一度顔合わせをしておくにより良い連携が可能になると思うが、調整が難しい。MCSは情報共有の点で有用なツールであるため活用したいが、現状立ち上げの際のルールはない。外来から訪問に移行した患者の場合は、まれに訪問看護が介入していないこともあり、特にトラブルがなければ立ち上がらないケースがみられる。退院時にはケアマネジャーも関わるので、そのようなケースについてはMCSを立ち上げ、どうしても関係者が集まれない場合の情報共有ツールとして活用し、連携を図りたい。

- (㉞) 小金井市歯科医師会 HP に在宅時の連携についてのページが掲載されている。歯科医師会では在宅対応が必要な患者への訪問体制の整備を行っており、その窓口にもなっているため、是非活用いただき退院時の連携を図りたい。また、日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニックとも連携体制がとれている。
- (㉟) スケジュールの都合上、医師とケアマネジャーが直接会って話をするのが難しく、MCS を活用して連携をしている。しかし文字だけでは伝わりづらい点も多くあり課題であるため、オンライン会議等のツールも活用しつつ、顔の見える関係性を構築できるとより良い。
- (㊀) 外来患者で薬剤師の在宅支援がないケースにおいても、認知機能の低下がみられる場合や服薬に不安がある場合に担当ケアマネジャーと連携することがあるため、お互いに顔が見える関係性は重要だと感じる。患者の MCS のグループを作成することでは各職種の担当者を把握できるので、今後必要な時にすぐ連携できるよう、予防的にグループを作成する方法も検討したい。
- (㊁) 以前からいるケアマネジャーだけではなく、ケアマネジャー歴の浅い方や、最近小金井市へ移動してきたケアマネジャーも関係機関との連携を取りやすくする必要がある。そのためにもやはり顔の見える関係性は重要であるし、それが患者の安心感にもつながるのではないか。

→ 上記から、①「退院・退所加算」を軸に多職種連携を進めたとしても、実際の運用には困難が見込まれること、また、これまでの検討経過からも、具体的な情報連携シート的なツールではなく入退院時における各職種の動きや、必要な情報を共有するような資料（表）を作成する方向で進めること②本部会での検討結果として、市（保険者）がケアマネジャーに対して、退院・退所加算取得支援を実施することを確認、了承。

ウ 作成する資料（表）について

資料案について、事務局から複数案を提示。以下について、確認、了承。

- (㊂) 入退院時の各職種の動きがわかる表については、寄居町が公表している類似の表を基に作成する。
- (㊃) 入退院時の職種、段階、疾病ごとに必要とする情報については、以前の部会で作成した表を整理する。

3 その他

次回予定 令和6年9月19日（木）午後7時から

会 議 録				
令和5年度第4回 急変時対応・看取り支援部会	日 時	令和5年3月13日(水) 午後7時～午後8時	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	部会長 大井 裕子 (小金井ファミリークリニック) 副部会長 譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター) 部会員 宮本 諭 (宮本内科医院) 部会員 飯塚 央子 (武蔵野中央病院) 部会員 黒田 俊太郎 (黒田歯科医院) 部会員 高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 長澤 由起子 (薬剤師会) 部会員 小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井) 部会員 齋藤 敦 (にこにこサービス) 部会員 高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課主査 濱松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	部会員 天野 秀達 (花物語こがねいナーシンググループホーム)			
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由		—		
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 令和5年度お元気サミットについて				
(2) 令和6年度の活動について				
ア お元気サミット				
イ 病院での看取り				
ウ ACP普及啓発事業				
エ 看取りについてのリーフレット				
オ 食支援				
3 その他				
次回日程について				

1 開会

事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 令和5年度お元気サミットについて

次のとおり振り返りを行った。

ア 2年続けてほぼ同内容で行ったが、2年とも参加したことがうかがい知れるアンケート結果もあり、2年続けて参加してもらったことへの驚きがあるとともに、2年目は違った視点や投げかけを意識しても良かったのではないかと。次年度以降はそのようにしたい。

イ 参加したくてもスケジュール等の理由で参加できないという声も聞くので、内容は変えるものの、続けていくこと、またYouTubeの周知をしていくことが大事だと思う。

ウ お元気サミットの周知を早くから行った方が良かったのではないかと。部会員からの周知や待ち時間の多い郵便局や銀行等への配架も検討する。

エ 参加者の反応や質問が多くあったので、対応する時間を長く設けても良いのではないかと。

(2) 令和6年度の活動について

次のとおり協議を行った。

ア お元気サミット

次のとおり協議を行い、内容の変更・追加の上、引続き朗読劇を行うこととし、台本を更新することとした。

(1) 朗読劇は引続き行い、参加者の質問に対応する時間を工夫するとさらに良くなると思う。

(2) 朗読劇の代わりに事例発表を行うのも良い。

(3) 朗読劇は総論的な内容であり、受け入れられやすいと思う。事例発表の場合は、臨場感が出るが、事例の選定には個別具体的になり過ぎないように配慮が必要である。

(4) 朗読劇に食べられなくなったときの家族の気持ちや葛藤、それに対応して行くプロセスを追加するとより良い。

イ 病院での看取り

次のとおり協議を行い、看取りのリーフレットに看取りのできる市内病院を追記することとした。

(1) 各病院で特色があると思っていたが、前回ヒアリングをして、どの病院も同じような回答であるのが意外であった。

(4) 看取りのリーフレットに病院について盛り込む場合、病院の特徴やどのような患者を受け入れているかを記載するのは難しいと思う。

(5) 市内病院に看取りのリーフレットへの掲載可否と、可の場合の一言メッセージについて照会を行う。

ウ ACP普及啓発事業

エ 看取りについてのリーフレット

改訂箇所がある場合はMCSで連絡することとした。

オ 食支援

食支援に関する困りごと等について医療・介護従事者にアンケートすることとし、アンケートの内容を検討することとした。

(7) うまくいかなかった事例や困りごとを集めて、それに対して回答していく形が良いのではないか。

(8) 最前線のヘルパーの意見を聞くのも良いのではないか。小介連の訪問介護部会は頻繁に顔を合わせているので、アンケートを取ることは可能だと思う。

(9) アンケートの対象は職種を限定せず広く設定する。

3 その他

次回予定 令和6年5月15日（水）午後7時から（Web会議）

会 議 録					
令和6年度第1回 急変時対応・看取り支援部会	日 時	令和6年5月29日(水) 午後7時～午後8時10分	場 所	Web会議	
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課				
出席者	委 員	部会長	大井 裕子 (小金井ファミリークリニック)		
		副部会長	譜久村 翔 (WLIFE訪問看護センター)		
部会員		宮本 諭 (宮本内科医院)			
部会員		飯塚 央子 (武蔵野中央病院)			
部会員		黒田 俊太郎 (黒田歯科医院)			
部会員		長澤 由起子 (薬剤師会)			
部会員		小嶋 理絵 (あんずケアプランセンター小金井)			
部会員		高野 美子 (小金井きた地域包括支援センター)			
事務局	介護福祉課主査		濱松 俊彦		
	介護福祉課包括支援係主事		原 千咲		
欠席者	部会員	高橋 賢晃 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)			
	部会員	齋藤 敦 (にこにこサービス)			
	部会員	天野 秀達 (花物語こがねいナーシンググループホーム)			
	小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美				
傍聴の可否	◎可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	0人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—		
次 第					
1 開会					
2 議題					
(1) 令和6年度活動予定					
(2) ACP普及啓発事業について					
(3) 令和6年度お元気サミット(11月13日(水)、14日(木))について					
(4) 看取りについてのリーフレットについて					
(5) 食支援に係るアンケートについて					
3 その他					
次回日程					

1 開会

事務局から連絡事項の説明を行った。

2 議題

(1) 令和6年度活動予定

資料1を用いて確認を行った。必要があれば随時変更する。

(2) ACP普及啓発事業について

事務局から本事業について資料2を用いて改めて説明を行った。謝礼については、毎月1回1時間2人が出席することを前提として予算措置をしているが、人数や回数等についてはあくまで予算の積算であるので、仮に2人以上が出席した場合も全員に謝礼を支払うことを確認した。

その他、以下の点について部会長から補足説明とそれぞれ確認を行った。

ア 今後本事業を実施するにあたり、部会員それぞれが広報活動を積極的に行い、自分の広報した場所で実施の希望があった場合には、是非話す側として参加していただきたい。誰でも地域で話せることを目指している。

イ 5月29日実施回については、訪問診療している患者の小金井公園ウォーキング仲間5人が個人宅に集まり、その中で話をした。テーブルを囲む形でリーフレットに沿って話を進め、投げかけや、質問に答えながら1時間実施した。終了後には、「かかりつけの医師に話をしてみよう、聞いてみよう」「もし通院ができなくなった際にはどうしよう」等の気づきがあった様子だった。

ウ 看取りについて話す際には、誰でも通る道であることを確認し、スタートラインを同じにしたうえで、自分だったらどうしたいのか、どう看取られたいのかを一緒に考えるようにしている。

エ 説明時にはプロジェクター等は使用せず、リーフレットを用いて説明を行うことで、再度見返してもらえる。各自メモを取ったりしている。

(3) 令和6年度お元気サミット（11月13日（水）、14日（木））について

ア 日時について

11月14日（木）の午後に決定。

イ シナリオの確認

(1) 前回の検討をもとに、食事や嚥下について追加したが、食事や嚥下のことについて取り上げてしまうと、その部分のボリュームが大きくなってしまい、看取りについての印象がぼやけてしまうのではないか。前回の台本を修正せず、そのまま今回も使用するのはいかがでしょうか。

(2) 毎年お越しになる方もいるので、同じ台本でも、重点の置きどころを変え

ていくのがよいと思う。

(㊦) 今回は、食支援について重点を置くことになっていたのので、その方向でいきたい。

→上記を踏まえて、次回部会までにそれぞれ内容を検討しMCSにてコメント、加筆・修正する。台本が完成次第、役割分担等を検討する。

(4) 看取りについてのリーフレットについて

ア 病院からのメッセージが、リーフレットの「在宅でも看取りができる」という趣旨には合っていないように感じる。

イ コメントを記載する場合は6ページが内容に合っている。「急変時や家族の介護が大変等の在宅での看取りが難しい場合には、小金井市内の病院で看取る方法もある」という流れがあつての病院のコメントにしたい。

ウ 各病院のコメントを入れるよりも、上記イのカッコ内のような説明を記載して、病院名と住所のみの記載にしてはどうか。

エ コメント掲載箇所を示したうえで再度コメントを検討してもらってはどうか。

オ 病院だけの記載になっているが、クリニックで記載したいという意見もあると思う。

カ 小金井市HP該当ページへの案内だけの記載にしても良いのではないか。

→上記を踏まえて、病院名やコメント等は記載せず、「在宅が厳しい場合は病院という方法もある」という趣旨の一文を記載することに決定した。詳細案は部会長が検討し、提示する。「小金井市医療資源マップ」「小金井市訪問診療」等、検索しやすいワードを盛り込むなど工夫する。

(5) 食支援に係るアンケートについて

資料を確認し、以下修正点を共有した。

ア 「5. 食事を食べさせるのに時間がかかることがありましたか？」→「(患者さんが) 食事をする時間が30分以上のことがありましたか？」

イ 「7. 食事を拒否して食べてくれないことがありましたか？」→「食事介助するときに患者さん(利用者さん)が拒否していると感じることがありましたか？」追加質問として「それはなぜ拒否していると思いますか？」

ウ 「9. 錠剤を飲ませるのが大変なことがありましたか？」→「患者さん(利用者さん)が錠剤を飲むのが大変なことがありましたか？」

エ 「とろみのついた食事や飲み物を嫌がる様子はありますか？」等のとろみについての質問を追加する。

オ 「上記のような場面に遭遇することがありますか？」という質問を最後に追

加する。

カ 所属、職種、氏名の記入欄を追加する。

→事務局にて書式を整え、MCSにて確認いただく。アンケート実施対象は全職種とし、事務局で調整する。

3 その他

次回予定 令和6年8月27日（火）午後7時から（Web会議）

会 議 録				
令和6年度第1回 ICT連携部会	日 時	令和6年4月17日(水) 午後7時30分～午後8時30分	場 所	Web会議
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	部会長 田中 功一 (田中整形外科) 副部会長 戸原 雄 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック) 部会員 中原 昌則 (伯雲堂薬局) 部会員 清水 智恵 (訪問看護ステーション国立メディカルケアサテライト) 部会員 前田 芳博 (指定居宅介護支援事業所赤とんぼ) 部会員 大山 美奈子 (小金井太陽病院) 部会員 田口 重和 (みなみ地域包括支援センター)		
	事務局	介護福祉課主査 浜松 俊彦 介護福祉課包括支援係主事 原 千咲 小金井市在宅医療・介護連携支援室 川崎 恵美		
欠席者	内山 雅之 (うちやまクリニック) 橋詰 雅志 (歯科診療室 橋詰) 立岡 慎哉 (桜町聖ヨハネホーム)			
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合の理由			—	
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 今年度のICT連携部会の活動予定について				
(2) 令和5年度第2回ICT連携合同研修(退院時カンファレンス研修)振り返り				
(3) 令和6年度のICT連携部会の取り組みにつて				
ア 第1回ICT研修会について(薬剤師会MCS研修会)				
イ 第2回ICT研修会について				
3 その他				
1 開会				
2 議題				
(1) 今年度のICT連携部会の活動予定について				

ア おおむね資料 1 通りの年間活動予定で合意。

イ その他、今後課題が生じた際には随時検討。

(2) 令和 5 年度第 2 回 I C T 連携合同研修（退院時カンファレンス研修）振り返り

ア 事前情報やケアプラン等の資料を動画の前後に差し込む。

イ その後の動画の活用については、6 月の診療報酬改定後、算定要件を確認したうえで 7 月 1 1 日の親会議で周知し、M C S で動画の U R L を送付する。

(3) 令和 6 年度の I C T 連携部会の取り組みについて

ア 第 1 回 I C T 研修会について（薬剤師会 M C S 研修会）

(ア) 1 0 月 1 1 日（金）午後 8 時～実施で確定。

(イ) 薬剤師が M C S を活用した事例等の資料については中原委員が調整する。

(ロ) 役割分担については、次回第 2 回部会で検討する。

(ハ) 研修案内方法は小金井市在宅医療・介護連携支援室と中原委員で調整する。

(ニ) 今年度の薬剤師会 M C S 研修会も、昨年度の歯科医師会での研修時に講師として依頼したエンブレースに依頼できるように、調整は小金井市在宅医療・介護連携支援室が行う。

イ 第 2 回 I C T 研修会について

(ア) 診療報酬、介護報酬の改定に関する研修を実施することを確認。

(イ) 厚生労働省に講師の依頼ができるか調整を図る。

(ロ) 事務局でも実績があり講師になり得る方のリストを次回第 2 回部会までに作成する。

(ハ) 部会長案として、来年度以降、東洋大学の高野龍昭教授に医療と介護の D X に関する研修を依頼し、行いたいと考えている。

(ニ) 次回部会までに来年度以降の研修の内容を検討してくることを確認。

3 その他（I C T 部会員のみ）

(1) 次回予定 令和 6 年 7 月 1 7 日（水）午後 7 時 3 0 分～

小金井市在宅医療・介護連携推進会議 委員等名簿

委員

氏名（敬称略）		所 属
齋藤 寛和		一般社団法人小金井市医師会（さいとう医院）
平田 晋一		一般社団法人小金井歯科医師会（平田歯科医院）
森田 洋彰		社団法人小金井市薬剤師会（にじいろ薬局）
齋藤 優喜子		医療連携相談室担当者（桜町病院）
譜久村 翔		訪問看護ステーション（WLIFE 訪問看護センター）
小嶋 理絵		居宅支援事業所（あんずケアプランセンター小金井）
齋藤 敦		介護保険サービス事業所（にこにこサービス）
河西 あかね		東京都多摩府中保健所
地域包括 支援セン ター	高野 美子	小金井きた地域包括支援センター
	田口 重和	小金井みなみ地域包括支援センター
	高橋 徹	小金井ひがし地域包括支援センター
	久野 紀子	小金井にし地域包括支援センター
菊谷 武		学識経験者（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック）
伊藤 直樹		日常療養支援・多職種連携研修部会長（みずたま介護ステーション）
執行 真之		入退院支援部会長（ひがこ訪問看護ステーション）
大井 裕子		急変時対応・看取り支援部会長（小金井ファミリークリニック）
田中 功一		I C T連携部会長（田中整形外科）

在宅医療・介護連携支援室

氏 名	所 属
川崎 恵美	一般社団法人小金井市医師会

介護福祉課

氏 名	所 属
礪端 洋充	小金井市福祉保健部 高齢福祉担当課長
濱松 俊彦	小金井市福祉保健部 介護福祉課主査
原 千咲	小金井市福祉保健部 介護福祉課包括支援係